

上尾新校基本計画

平成 1 7 年 1 1 月

埼玉県教育委員会

目 次

1	県教育委員会の基本姿勢	1
2	新校の基本的枠組み	
	(1) 新校の設置等	
	(2) 設置場所	
	(3) 課程・学科等	
	(4) 学校規模	
	(5) 開校予定年度	
3	新校の校名	
4	新校の基本理念	2
	(1) 目指す学校像	
	(2) 育てたい生徒像	
5	新校の教育活動等の基本方針	
	(1) 基本姿勢	
	(2) 教科指導	
	(3) 生徒指導	
	(4) 進路指導	
	(5) 生徒募集	
6	教育活動等の基本方針の具現化	
	(1) 教科指導	
	(2) 生徒指導	
	(3) 進路指導	
	(4) 生徒募集	
	(5) その他	
7	開校準備	3
	(1) 施設・設備の整備等	
	(2) 公文書等の保管及び諸証明書の発行	
	(3) 生徒募集及び入学者選抜	
	(4) 校旗、校歌、制服等	
8	対象校における教育活動	4
9	新校の教育環境の整備	
10	付随する事項	
	(1) 跡地の利活用	
	(2) 同窓会及び後援会	
	(3) 対象校が保管する物品等の保存	

[参考資料]

資料 1	：新校準備委員会設置要綱（委員名簿を含む）	5
資料 2	：新校基本計画検討委員会等設置要綱（委員名簿を含む）	8
資料 3	：上尾新校準備委員会及び上尾新校基本計画検討委員会の開催状況	1 1
資料 4	：6つの新校準備委員会でのいただいた主な御意見等	1 3

県立高等学校の中期再編整備計画（第1期）（以下「計画」という。）に基づき、次のとおり、上尾新校（仮称）を設置する。

1 県教育委員会の基本姿勢

新校基本計画の策定に当たっては、教育局及び対象校の教職員により構成する基本計画検討委員会において検討するとともに、地元関係者や学校関係者の御協力を得て、新校準備委員会を設置し、様々な観点から御意見等をいただいた。

県教育委員会は、いただいた御意見や、対象校が統合に至った事実を重く受け止め、次のとおり、県立高校の再編整備に取り組む。

- (1) 県立高校の再編整備は、中学校卒業生が減少する中で、県立高校の活性化・特色化を図る教育行政上の重要施策であり、新校の設置に当たっては、教育環境の整備に重点的に取り組む。
- (2) 校長は、新校が組織としての機能を十分に発揮するよう、主導的に学校の管理・運営に取り組む。
- (3) 新校の管理・運営に当たっては、校長をはじめとする教職員の意識改革が求められている。教職員は、経営感覚を持って、生徒や保護者のニーズを的確に把握し、積極的に教育活動を展開するとともに、新校の活動を地域に公開していく。

2 新校の基本的枠組み

(1) 新校の設置等

上尾沼南高校と上尾東高校（以下「対象校」という。）を統合し、上尾新校（仮称）（以下「新校」という。）を設置する。大宮中央高校は新校の協力校とする。

(2) 設置場所

上尾市大字原市2800番地（現上尾沼南高校）に設置する。

(3) 課程・学科等

全日制課程の普通科とし、単位制を導入する。

(4) 学校規模

各年次240人、合計720人の規模とする。

(5) 開校予定年度等

新校の開校は平成20年度とする。

上尾沼南高校は平成19年度から生徒募集を停止し、上尾東高校は平成18年度から生徒募集を停止する。

3 新校の校名

県立高等学校の校名は、県議会の議決により「埼玉県学校設置条例」で定められる。県教育委員会においては、新校が対象校を統合し、新たに設置される高校であることに鑑み、「埼玉県立高等学校の校名変更の検討基準」に基づき、新校に相応しい校名案を検討する。

校名案の検討に当たっては、県民や対象校関係者などから校名のアイデアを広く募集するとともに、新校準備委員会において意見等を聴取する。

4 新校の基本理念

計画に定める再編整備の方針等を踏まえ、次のとおりとする。

(1) 目指す学校像

- ア 家庭とのつながりを大切にし、生徒一人一人の面倒をよくみる学校
- イ 不登校を経験した生徒に対しても高校生活を支援する学校
- ウ 様々な場面でIT（パソコン等）を活用して学べる学校

(2) 育てたい生徒像

- ア 基礎的・基本的な学力を身に付け、自己実現に向けて努力する生徒
- イ 豊かな人間関係を築き、社会性・規範意識を身に付けている生徒
- ウ 情報社会においてITを積極的に活用できる生徒

5 新校の教育活動等の基本方針

新校の基本理念に基づき、次のとおり、教育活動等の基本方針を定める。

(1) 基本姿勢

教職員は「生徒の面倒をよくみる」、生徒は「心豊かで自他を大切にする」、保護者は「学校の教育方針をよく理解し協力する」を基本姿勢とする。

(2) 教科指導

- ア 基礎・基本を重視し、社会生活に求められる確かな学力を身に付けさせる。
- イ 多様な授業形態や体験的な学習を導入し、「学ぶ」楽しさと「できる」自信を味わわせる。
- ウ 現行制度に照らしつつ、不登校傾向の生徒が、登校しながら学び続けられるシステムを構築するとともに、単位制を生かして柔軟な履修方法・指導方法を工夫する。

(3) 生徒指導

- ア 人間関係の重要性を実感させ、他を思いやる心や豊かな人間関係を築く能力を育成する。
- イ 基本的な生活習慣を身に付けさせるとともに、社会性や規範意識を育成する。
- ウ 生徒や保護者が抱える悩みや問題に十分応えられる相談体制の充実を図る。

(4) 進路指導

- ア 勤労観や職業観を育てる教育（キャリア教育）を推進し継続的な進路指導の充実を図る。
- イ 自己の在り方生き方について考えさせ、社会の一員としての自覚を持たせる。

(5) 生徒募集

「入りたい高校」、「入れたい高校」として、生徒や保護者をはじめ地域から評価される学校となるよう努め、生徒募集に全力を尽くす。

6 教育活動等の基本方針の具現化

教育活動等の基本方針に基づき、今後、次のとおり検討する。

(1) 教科指導

- ア 実習を伴う科目や個性・能力に合った多様な科目を設定するとともに、ガイ

ダンス機能の充実を図る。

イ 少人数指導や習熟度別授業、ITを活用した授業などの実施により、わかる授業を徹底する。

ウ 自然体験やボランティア活動など体験的な学習や異校種間交流を実施する。

エ 不登校傾向の生徒に対し、個々の状況を判断して、個別に授業を行う。教材は、大宮中央高校の協力を得ながら開発する。

(2) 生徒指導

ア コミュニケーション能力や問題解決能力を育成するため、ホームルーム活動や学校行事等の特別活動の活発化を図る。

イ 時間を守ること、身だしなみを整えること、あいさつを徹底することなどを粘り強く指導し、社会で求められる規律ある態度や行動を身に付けさせる。

ウ 生徒、保護者がいつでも気軽に相談できるように、相談・支援の校内体制を整備する。

エ 地域の相談機関との連携やスクールカウンセラーの活用など教育相談機能の充実を図る。

(3) 進路指導

ア キャリア教育の取組を、教科指導、特別活動等に体系的に位置付けて実施する。

イ 入学から卒業までを見通した進路指導計画を作成し、組織的、継続的に指導する。

ウ 就業体験（インターンシップ）、ボランティア活動などを実施し、望ましい勤労観、職業観を養うとともに、社会の一員としての自覚を育成する。

エ 生徒が主体的かつ適切に進路設計ができるように、積極的にITを活用できるよう整備する。

(4) 生徒募集

ア 全教職員で生徒募集に全力を挙げ、中学校と連携を図りながら新校開設前から学校説明会を県内各所で開催する。

イ 新校の基本理念等の十分な理解を図るために、学校ホームページをはじめ様々な方法で新校の特長を積極的に発信する。

ウ 入学者選抜の工夫等により、意欲と目的意識の高い生徒の入学志願を促す。

(5) その他

ア 学習指導や教育相談等の充実を図るため、研修などにより教職員の資質・能力を高める。

イ IT環境を整え、生徒がいつでも気軽に活用できる体制を確立する。

ウ 開かれた学校として地域に貢献するとともに、地域の特性や教育力を教育活動の様々な場面で活用する。

7 開校準備

(1) 施設・設備の整備等

上尾沼南高校の施設・設備の有効活用を基本に、必要な改修や整備に努める。

整備期間は平成18年度から21年度を目途とする。

対象校の備品等については、原則として、新校に引き継ぐものとし、保管転換の事務や移動作業、配置等については、対象校が協力して行う。

(2) 公文書等の保管及び諸証明書の発行

対象校が保管する公文書等については、新校が引き継ぐ。統合後の各種証明書の発行は新校が行う。

(3) 生徒募集及び入学者選抜

生徒募集活動や入学者選抜の事務は、上尾沼南高校が中心となり、上尾東高校が全面的に協力して行う。

(4) 校旗、校歌、制服等

新たな校旗、校歌、制服等については、今後、新校の準備を進める中で検討する。

8 対象校における教育活動

対象校においては、生徒募集の停止後においても、在校生に教育上の支障が生じることがないように、また、不利益が及ぶことがないように配慮する。

9 新校の教育環境の整備

県立高校の再編整備を積極的に推進する見地から、新校の教育環境の整備に努める。教職員等の人事や定数、教育課程の編成、単位の認定などについては、現行制度に照らしつつ、再編整備に伴う活性化・特色化を進める方向で前向きに検討し、また、施設・設備の整備については、必要な予算の確保に努める。

10 付随する事項

(1) 跡地の利活用

上尾東高校の設置や管理運営に当たっては、上尾市など関係者から多大な御協力をいただいていた。県教育委員会においては、これらの経緯を踏まえ、今後の利活用を検討する。

(2) 同窓会及び後援会

今後、対象校の同窓会及び後援会で検討する。

(3) 対象校が保管する物品等の保存

対象校が保管する校旗や卒業記念品、記念誌等の取扱いについては、今後、関係者の意見を伺いながら検討する。

新校準備委員会設置要綱

(設置)

第1条 「県立高等学校の中期再編整備計画(第1期)」に基づき、新たに設置される高校の円滑な推進を図るため、新校準備委員会(以下「委員会」という。)を別表1のとおり設置する。

(所掌事務)

第2条 委員会においては、次に掲げる事項について、各委員から意見等を聴取する。

- (1) 新校基本計画に関すること。
- (2) 新校の校名に関すること。
- (3) その他上記事項に関連すること。

(構成)

第3条 委員会は、別表2に掲げる者をもって構成する。

- 2 委員会の構成員(以下「委員」という。)は、教育長が依頼又は任命する。
- 3 委員会に委員長及び副委員長を置き、委員長は管理部参事をもって充て、副委員長は、再編整備対象校の校長をもって充てる。
- 4 委員長は、委員会を代表し、会務を統括する。

(運営)

第4条 委員長は、委員会の会議を招集し、主宰する。

- 2 委員長は、必要に応じて、関係者の出席を求め、意見等を聴取することができる。
- 3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代理する。

(会議の公開)

第5条 委員会の会議は、原則として公開とする。ただし、出席した委員の3分の2以上の多数で議決したときは、非公開とすることができる。

(設置期間)

第6条 委員会の設置期間は、委員会が設置された日から平成20年3月31日までとする。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は、管理部高校改革推進室長において処理する。

(その他)

第8条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営について必要な事項は委員長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成17年5月10日から施行する。

別表 1

新校準備委員会

	再編整備対象校
不動岡新校準備委員会	不動岡誠和高校、騎西高校
狭山新校準備委員会	狭山高校（全・定）、川越高校（定）、豊岡高校（定）
鶴ヶ島新校準備委員会	鶴ヶ島高校、毛呂山高校
新座新校準備委員会	新座北高校、所沢東高校
上尾新校準備委員会	上尾沼南高校、上尾東高校
寄居新校準備委員会	寄居高校、川本高校

別表 2

新校準備委員会委員

地元関係者	地元一般行政関係者 地元教育行政関係者 地元産業関係者
学校関係者	地元中学校長 再編整備対象校 P T A 等関係者
県教育委員会関係者	管理部参事 再編整備対象校校長 管理部高校改革推進室長

上尾新校準備委員会名簿

委員長	羽鳥	利明	教育局管理部参事
副委員長	野口	実	上尾沼南高校長
副委員長	相澤	修	上尾東高校校長
副委員長	中浜	邦夫	大宮中央高校長
委員	陸田	隆之	上尾市助役
委員	藤村	憲治	大宮公共職業安定所長
委員	原	繁	鴻巣保健所長
委員	浅見	勲	上尾市教育長
委員	太田	篤實	上尾商工会議所専務理事
委員	山口	秀之助	上尾市立大石南中学校長
委員	濱口	正子	上尾沼南高校 P T A 会長
委員	藤城	善仁	上尾沼南高校後援会長
委員	兼松	崇嗣	上尾沼南高校同窓会代表
委員	杉本	美弥子	上尾東高校 P T A 会長
委員	浅野	友子	上尾東高校後援会長
委員	加藤	正明	上尾東高校同窓会代表
委員	粟生田	邦夫	教育局管理部高校改革推進室長

新校基本計画検討委員会等設置要綱

(設置)

第 1 条 「県立高等学校の中期再編整備計画(第 1 期)」に基づき、新たに設置される高校等の基本計画を検討するため、新校基本計画検討委員会及び学科再編検討委員会(以下「検討委員会」という。)を別表のとおり設置する。

(構成)

第 2 条 検討委員会の構成員(以下「委員」という。)は、本局の職員及び再編整備対象校の教職員の中から、教育長が任命する。

2 検討委員会に委員長及び副委員長を置く。委員長は、管理部副参事兼高校改革推進室長付副室長をもって充て、副委員長は、新校基本計画検討委員会にあっては再編整備対象校の教頭を、学科再編検討委員会にあっては再編整備対象校の校長をもって充てる。

3 委員長は、検討委員会を代表し、会務を統括する。

(運営)

第 3 条 委員長は、検討委員会の会議を招集し、主宰する。

2 委員長は、必要に応じて、関係者の出席を求め、意見を聴くことができる。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代理する。

(会議の公開)

第 4 条 検討委員会の会議は、原則として公開する。ただし、出席した委員の 3 分の 2 以上の多数で議決したときは、非公開とすることができる。

(設置期間)

第 5 条 検討委員会の設置期間は、委員会が設置された日から平成 18 年 3 月 31 日までとする。

(庶務)

第 6 条 検討委員会の庶務は、管理部高校改革推進室長において処理する。

(その他)

第 7 条 この要綱に定めるもののほか、検討委員会の運営について必要な事項は委員長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成 17 年 5 月 10 日から施行する。

別表

新校基本計画検討委員会及び学科再編検討委員会

	再編整備対象校
不動岡新校基本計画検討委員会	不動岡誠和高校、騎西高校
狭山新校基本計画検討委員会	狭山高校(全・定)、川越高校(定)、豊岡高校(定)
川越工業高校(定)学科再編検討委員会	川越工業高校(定)
鶴ヶ島新校基本計画検討委員会	鶴ヶ島高校、毛呂山高校
新座新校基本計画検討委員会	新座北高校、所沢東高校
上尾新校基本計画検討委員会	上尾沼南高校、上尾東高校
寄居新校基本計画検討委員会	寄居高校、川本高校

上尾新校基本計画検討委員会名簿

委員長	松田 敏男	高校改革推進室副室長
副委員長	和久津啓治	上尾沼南高校教頭
副委員長	西山 茂	上尾東高校教頭
副委員長	大塚 徳明	大宮中央高校副校長
委員	高木 祐一	上尾沼南高校教諭（主幹・教務主任）
委員	善林 潤一	上尾沼南高校教諭（進路指導主事）
委員	柳澤 昌樹	上尾沼南高校事務長
委員	小玉 清司	上尾東高校教諭（主幹・教務主任）
委員	田島 昭彦	上尾東高校教諭（主幹・第2学年主任）
委員	小嶋 博之	大宮中央高校教諭（主幹・教務主任）
委員	勝村 直久	財務課主幹（予算総括担当）
委員	吉田 文之	財務課主査（学校施設担当）
委員	渡辺 光一	県立学校課主任管理主事（人事担当）
委員	関田 晃	県立学校課管理主事（学事担当）
委員	浅海 純一	高校教育指導課指導主事（教育指導担当）
委員	辻村 昌之	高校改革推進室長付主幹
委員	槇 拓治	高校改革推進室長付主任管理主事
委員	山本 健敬	高校改革推進室長付管理主事

資料 3

上尾新校準備委員会開催状況

第 1 回

- 日 時 平成 17 年 5 月 30 日 (月) 15 : 00 ~ 15 : 53
場 所 上尾沼南高校
議 題 (1) 県立高校の再編整備について
(2) 上尾沼南高校と上尾東高校の統合について
(3) 上尾新校基本計画 (骨子) (案) について
(4) その他

第 2 回

- 日 時 平成 17 年 7 月 19 日 (火) 15 : 00 ~ 16 : 39
場 所 上尾沼南高校
議 題 (1) 対象校の生徒の進路状況について
(2) 地域における就職状況について
(3) 思春期における事業について
(4) 単位制について
(5) 上尾新校基本計画 (案) について
(6) その他

第 3 回

- 日 時 平成 17 年 8 月 25 日 (木) 15 : 00 ~ 15 : 48
場 所 上尾沼南高校
議 題 (1) 上尾新校基本計画 (案) について
(2) その他

第 4 回

- 日 時 平成 17 年 10 月 17 日 (月) 15 : 00 ~ 15 : 33
場 所 上尾沼南高校
議 題 (1) 上尾新校基本計画 (案) について
(2) その他

上尾新校基本計画検討委員会開催状況

第1回

日 時 平成17年5月30日(月) 10:00~11:35
場 所 上尾沼南高校
議 題 (1)新校基本計画検討委員会設置の趣旨について
(2)上尾新校基本計画(骨子)(案)について

第2回

日 時 平成17年7月13日(金) 10:00~11:38
場 所 上尾沼南高校
議 題 (1)第1回委員会の概要について
(2)上尾新校基本計画(案)について

第3回

日 時 平成17年8月25日(木) 10:00~11:30
場 所 上尾沼南高校
議 題 (1)第2回委員会の概要について
(2)上尾新校基本計画(案)について

第4回

日 時 平成17年10月17日(月) 10:00~10:42
場 所 上尾沼南高校
議 題 (1)第3回委員会の概要について
(2)上尾新校基本計画(案)について

資料 4

6つの新校準備委員会でいただいた主な御意見等

1 上尾新校準備委員会でいただいた主な御意見・御要望等

新校の校名には是非「上尾」の地名は残して欲しい。

商工会議所をいろいろな形で活用していくべきである。職業意識の醸成に役立つ。

同窓会の件は、対象校に一任して欲しい。

教育方針として、コミュニケーション能力の育成を図ることや、社会性やお辞儀の仕方、名刺の出し方等、社会人として当然身につけなければいけないものにも配慮するべきだ。

新校は不登校経験者対策、IT活用等で人的、物的に充実が望まれる。重点的な人員配置により、教育環境の整備をお願いしたい。

情報社会に対応する人材を育てるため、ITの活用を積極的に図るべきだ。

最近では親自身がマナーを守れなかったりすることが多い。親自身が勉強し、学校に協力することが求められる。

大宮中央高校とも連携して、不登校経験者が簡単にあきらめず、登校しながら学ぶことができるようなシステムを作るべきだ。

2 他の新校準備委員会でいただいた主な御意見・御要望等

保護者と学校の連携は不可欠である、親が学校に協力しなくてはならないようなところを基本計画に入れるべきである。

様々な学習歴やライフスタイルを持った生徒が自分のペースで学べるようにするべきである。

就業体験等を積極的に行い、履修単位として認定すべきである。

定職に就いている生徒にも対応できるカリキュラムにするべきである。

意欲のある教員を公募制やFA制の導入等で集めるべきだ。必要な設備投資も十分にしたい。

特色ある定時制の新校は、昼夜問わず指導体制の充実が望まれる。重点的に人事配当をしなくてはならない。これまでの画一的な県の人事異動方針は変えるべきだ。

最初の校長・教頭は、それにふさわしい人を選んでほしい。

近隣の大学や短大に働きかけ、積極的に連携して進路意識を高めるべきだ。

目玉になるような運動部をつくり、生徒たちの学校への意識やモラルを高めて欲しい。

新校の特色が一般の人にもわかるような、キャッチフレーズ的なものを作るべきだ。

部で入学しても 部の授業を受けることができるようにして欲しい。

協調性を養うため、集団での活動などを教育活動に入れるべきだ。

従来の高校の枠から出て、職業訓練施設や他の高校とも連携し、柔軟なシステムを作りたい。

新校では単位制を有効に活用できるよう、教員の人事や定数を前向きに検討すべきだ。

再編整備計画には、注目している。しっかりとした姿勢で新校の活性化・特色化を図ってもらいたい。

校長がリーダーシップを発揮して、新校を作り上げるべきだ。

意欲のある教員を公募制やFA制の導入等で集めるべきだ。必要な設備投資も十分にしたい。
特色ある定時制の新校は、昼夜問わず指導体制の充実が望まれる。重点的に人事配当をしないでならない。これまでの画一的な県の人事異動方針は変えるべきだ。
最初の校長・教頭は、それにふさわしい人を選んでほしい。
近隣の大学や短大に働きかけ、積極的に連携して進路意識を高めるべきだ。
目玉になるような運動部をつくり、生徒たちの学校への意識やモラルを高めて欲しい。
新校の特色が一般の人にもわかるような、キャッチフレーズ的なものを作るべきだ。
部で入学しても 部の授業を受けることが出来るようにしたい。
協調性を養うため、集団での活動などを教育活動に入れるべきだ。
従来の高校の枠から出て、職業訓練施設や他の高校とも連携し、柔軟なシステムを作りたい。
新校では単位制を有効に活用できるよう、教員の人事や定数を前向きに検討すべきだ。
再編整備計画には、注目している。しっかりとした姿勢で新校の活性化・特色化を図ってもらいたい。
校長がリーダーシップを発揮して、新校を作り上げるべきだ。
新座市には大学が3つあるので、積極的に連携するべきだ。
生徒は目的を持って行動することが苦手なところがあるので、資格取得、就業体験等に積極的に取り組ませ、その成果を単位認定するべきだ。
「特色ある単位制」を実施するのだから、その文言を「目指す学校像」に入れるべきだ。
地域、親のニーズに応え、子供の将来が安心できる学校にしたい。
教員が経営感覚を持って熱心に取り組んで欲しい。
県立高校としての役割、地元に対しての役割を認識し、地域と連携することが必要だ。
単位制は大きな特長なので、中学生に分かりやすく啓発していくべきだ。
通学路に関連して、駅周辺は商店街を含めて整備していく必要がある。
新校のためには再編整備に反対している職員は入れ替えるべきである。
常識的な指導要領の内容(国旗・国歌)が実行できるよう、校長がリーダーシップを発揮するべきだ。
進学にも力を入れた計画にしたい。
これまでに自分の可能性を生かすことの出来なかった生徒にも、自信と希望を持たせて卒業させるような学校を目指すべきだ。
中学校との連携をもっと強力に進めていくべきだ。
学校と家庭が連携して、一緒に学校づくりを行うべきだ。
画一的な人事配置を行っているから県立高校全体がためになった。新しい学校をつくるには意欲ある先生が絶対必要である。重点的に人事配置をするべきだ。
小・中学校と積極的に連携し、新校の教育理念に合う生徒を開拓するべきだ。
福祉に長けた教員を配置するか、もしくは内部でしっかり育て、人的に充実した学校にすべきだ。
新校では地元に着目した学校外での学習内容を多く設定したい。
授業の中で、就業体験等に取り組み、それを単位として認定すべきである。
福祉に関する期待とニーズは大きい。県のモデル校として、県全体の福祉のニーズを担ってもらいたい。
新校への県教委の姿勢は、地元だけでなく、県民が注目している。しっかりとした措置をしてもらいたい。
多様な科目の開講が十分できるように、教職員定数や施設・設備の充実を図るべきだ。